



【特集】アフターコロナ矢板新時代開拓予算

いまだ新型コロナウイルスの感染拡大が続き、収束が見えない中、本市は国の令和3年度補正予算による「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を財源に盛り込んだ令和4年度当初予算を編成しました。

本予算は、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に、コロナ禍を乗り越え、新時代を開拓するための取り組み

を強力に推し進めるものとなっています。

そこで、令和4年度当初予算は、『アフターコロナ 矢板新時代開拓予算』と命名し、各種施策に取り組んでいきます。

今号の特集では、令和4年度当初予算の主要事業などについてご紹介します。

令和4年度当初予算「アフターコロナ 矢板新時代開拓 予算」主要事業について

令和4年度当初予算の主要事業について、「矢板市総合計画」における「まちづくりの重点項目」ごとにご紹介します。

また、予算編成のポイントとして、皆さんにぜひ知っていただきたい“地方自治体の貯金”とも言える本市の「財政調整基金」の現状についても併せてご説明します。

時代に即した産業を振興するまちづくり

林業人材確保育成事業 (1,660万円)

林業振興を目的に、令和4年度から配置する地域おこし協力隊（林業振興）3人を活用し、市有林・市管理林道や森林経営管理制度に基づく市が受託する森林の管理活動、農山村での事業継承の可能性調査などに取り組みます。

また、地域林政アドバイザー1人を増員して、地域おこし協力隊員（林業振興）の資質・技術向上を図ります。



災害に強いまちづくり

消防団活動事業 (4,230万円)

火災や自然災害から市民の生命・財産を守る消防団の活動を支援し、消防団員の増強を図るため、活動しやすい環境整備や団員教育に取り組みます。

今年度から火災や災害時などの出勤手当の増額や、消防車両全車にバックモニター付ドライブレコーダーを配備していきます。



健康なまちづくり

健康ポイント事業 (790万円)

市民の健康づくりの動機付けや運動習慣の定着を促進し、健康寿命の延伸と健康なまちづくりを実現するため、日ごろのウォーキングや市が主催する運動教室などへの参加、定期的な健康診断の受診など、健康づくり活動に対してポイントを付与します。

貯めたポイントは市内で使える商品券への交換や、市の子育て支援施策への寄附に利用することができます。



安心快適なまちづくり

地域公共交通運行事業 (3,830万円)

予約に合わせて相乗りで運行する「デマンド交通」と、中心市街地を定期的に循環する「中央部循環路線」を運行し、地域公共交通の利便性の向上を図ります。

また、コロナ矢板・玉田地区で運行する地域共助型生活交通「コリンタ号」に対する支援を行います。



未来社会を切り拓くひとづくり

国民体育大会推進事業 (2億320万円)

10月に開催される第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」の成功に向けて、市実行委員会を中心に機運醸成を図ります。

本市は、矢板運動公園を会場にサッカー（少年女子）と軟式野球（成年男子）を実施します。

全国から選手や関係者をお迎えする準備として、運動公園内駐車場・園路の舗装修繕や周辺市道などの整備を行います。



体育施設整備事業 (8億1,090万円)

市文化会館・市体育館などを集約した「文化スポーツ複合施設」の令和6年度開業に向けて整備を進めます。令和4年度は、建設予定地であるとちぎフットボールセンター内で、本体建設・外構整備などに着手します。

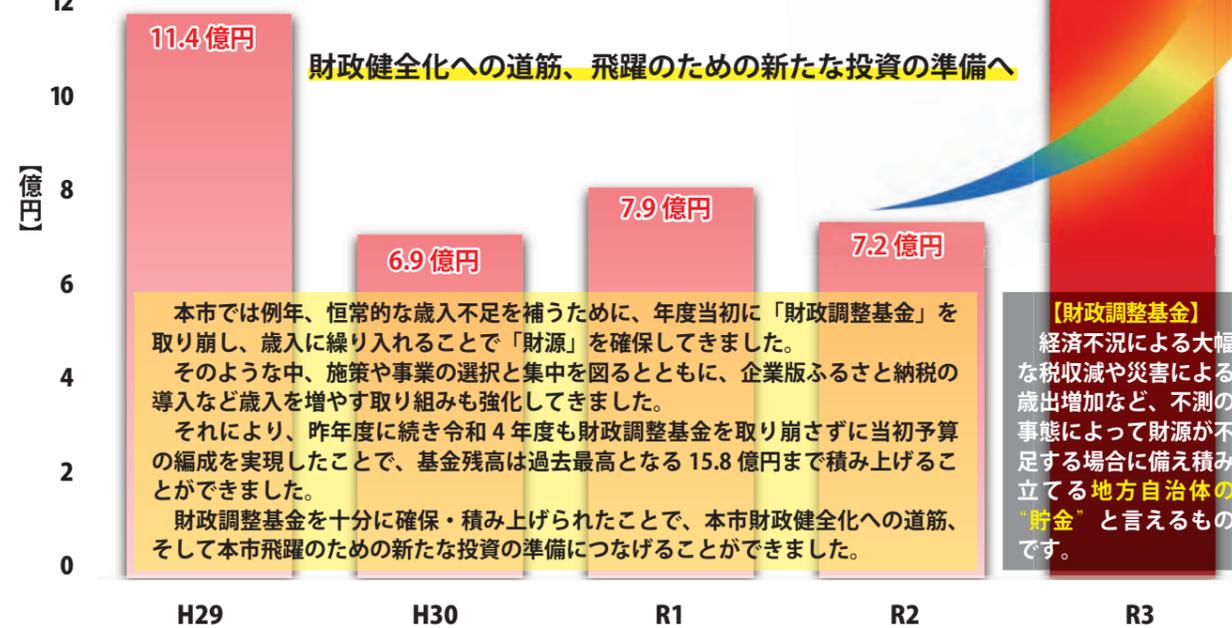
市民が集う地域活性化の拠点や市外からの集客を図る観光拠点としての機能をもたせるなど、最先端のデジタル技術を備えた施設としてさまざまな事業の展開を予定しています。



令和4年度 当初予算編成のポイント

【財政調整基金残高の推移】

- ▶ 2年連続！財政調整基金、年度当初の取り崩しゼロ
- ▶ 過去最高！財政調整基金残高 15.8億円



本市では例年、恒常的な歳入不足を補うために、年度当初に「財政調整基金」を取り崩し、歳入に繰り入れることで「財源」を確保してきました。そのような中、施策や事業の選択と集中を図るとともに、企業版ふるさと納税の導入など歳入を増やす取り組みも強化してきました。それにより、昨年度に続き令和4年度も財政調整基金を取り崩さずに当初予算の編成を実現したことで、基金残高は過去最高となる15.8億円まで積み上げることができました。財政調整基金を十分に確保・積み上げられたことで、本市財政健全化への道筋、そして本市飛躍のための新たな投資の準備につなげることができました。

【財政調整基金】
経済不況による大幅な税収減や災害による歳出増加など、不測の事態によって財源が不足する場合に備え積み立てる地方自治体の「貯金」と言えるものです。

本市では、これまで新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、「いのちを守る」・「経済を復興する」・「学びを取り戻す」の3つを基本方向とする『アフターコロナ矢板創生戦略』に基づき、感染拡大防止と社会経済活動の本格再開に向けた取り組みを推進するとともに、昨年5月からはワクチン接種にも力を注いできました。

令和4年度は、コロナ禍を克服した上で、新時代を開拓する新たな取り組みを強力に推し進めていくため、この交付金を活用し、アフターコロナを見据えた各種事業に取り組んでいきます。

【新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金】

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するとともに、感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援し地方創生を図るため、地方公共団体が地域の実情に応じてきめ細かに必要な事業を実施できるよう、国が創設した交付金です。



**海外展開 PR ホームページサイト
構築事業 (150万円)**

外資系企業の誘致や外国人観光客を呼び込むツールの1つとして、海外展開に向けたホームページを作成し、矢板の魅力を発信および地域経済の活性化を目指します。



**やいた応援クーポン券配布・プレミアム付き
商品券・リフォーム券発行事業(3,490万円)**

各種クーポン券などを発行し、消費者の購買意欲の向上につなげ、市内店舗への来店機会の創出を図るなど、外出自粛などにより冷え込んだ経済の回復と市民生活の支援に取り組みます。



**やいたの魅力発信事業
(300万円)**

コロナ禍により減少した流入人口の増加を図るため、夕方のテレビ番組内に本市の情報発信コーナー・情報告知コーナーを設けて、映像を活用したプロモーションを行います。



**認知症予防テキスト郵送事業
(140万円)**

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、高齢者の外出や交流機会が減少しているため、自宅にいながら認知機能の維持・向上ができるよう、認知症予防テキスト「ともなり脳トレのすゝめ」を作成し、対象となる高齢者にお届けします。



**販路開拓ホームページサイト
構築支援事業 (100万円)**

売上の拡大や新規顧客の開拓および顧客との継続的な取引などが図れるよう、市内製造業者の事業紹介コンテンツをまとめたホームページサイトを構築する費用の一部を補助します。



**デジタルミュージアム
コンテンツ充実事業 (1,040万円)**

コンテンツ拡充を図るため、指定文化財などを中心に資料のデジタル化を実施し、多くの方に3次元画像や高精細画像を通して文化財に触れる機会をつくり関心を高めてもらうようにするなど、デジタルのメリットを最大限活かしていきます。



**農業経営収入保険加入促進事業
(700万円)**

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による休業や農作物の価格下落のほか、異常気象や自然災害による収量減など、経営努力では避けられないリスクに備えて、収入減少を補填する「収入保険制度」への加入促進を支援し、農業の危機管理の徹底と経営安定化を図ります。



**商品包装資材配布事業
(300万円)**

「道の駅やいた」での安心・安全な農作物の提供を目的に、包装資材の利用促進による非接触化に取り組めます。また、原油価格の高騰による包装資材費の負担軽減を図るため、道の駅やいたに出荷する会員へ各種包装資材を配布し、生産者支援を行います。



**小・中学校情報機器整備事業
(2,300万円)**

小中学校全児童生徒への1人1台タブレット端末の配備によるタブレット端末の保守料やソフトリース料のほか、インターネット環境がない家庭のWi-Fi通信費を負担するなど、学校の臨時休業時に家庭での学習機会を確保できるよう、学習環境を整える支援を継続して取り組みます。



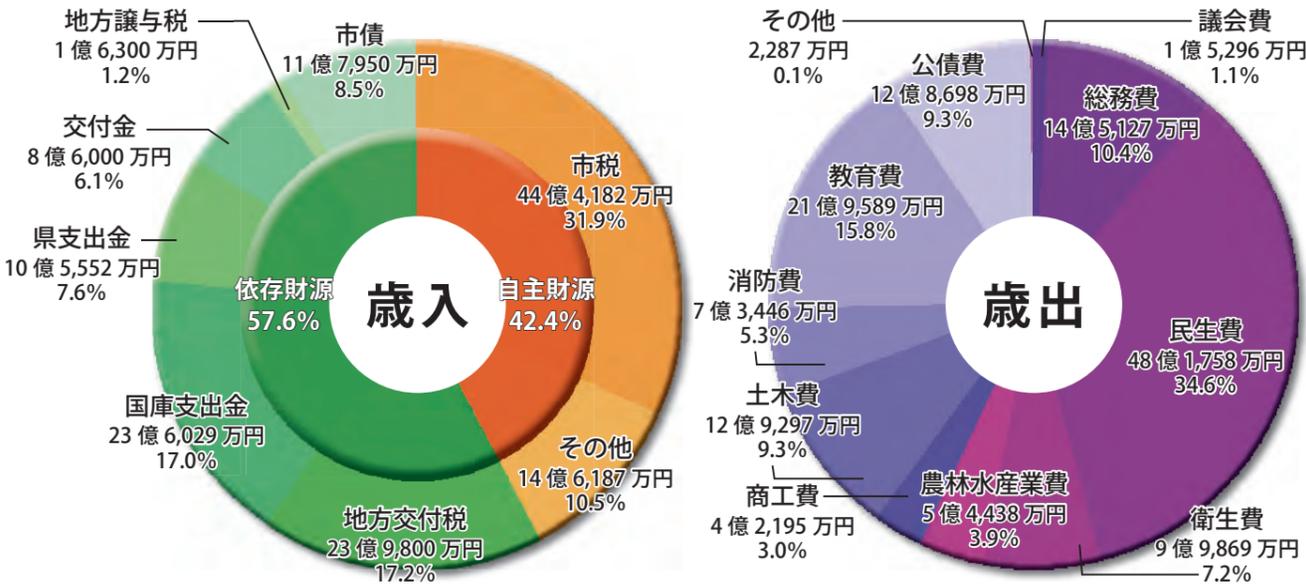
**学校体育館トイレ改修事業
(350万円)**

誰もが安心して過ごせる避難所運営を目的に、災害時指定避難所の1つである矢板小学校体育館のトイレを洋式タイプに改修するとともに、多目的トイレを新たに設置します。



令和4年度一般会計当初予算

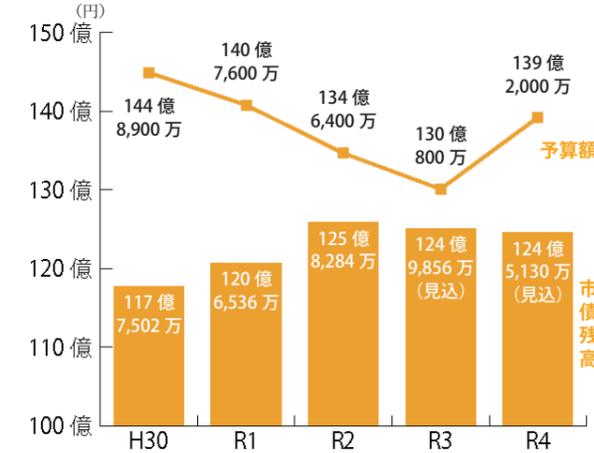
139億2,000万円



会計別予算額

区分	令和4年度	増減額(昨年度比)	増減率
一般会計	139億2,000万円	9億1,200万円	7.0%
特別会計			
介護保険	30億8,680万円	▲7,900万円	▲2.5%
国民健康保険	36億3,660万円	2,180万円	0.6%
後期高齢者医療	4億3,570万円	2,860万円	7.0%
ハッピーハイランド矢板排水処理事業	1,150万円	190万円	19.8%
小計	71億7,060万円	▲2,670万円	▲0.4%
水道事業会計	12億5,700万円	▲700万円	▲0.6%
下水道事業会計	11億8,390万円	▲1億820万円	▲8.4%
合計	235億3,150万円	7億7,010万円	3.4%

一般会計の予算額および市債残高の推移



【歳入】

市税のうち、市民税は、前年度厳しく見積もった新型コロナウイルス感染拡大に起因する景気悪化からの回復基調を見込み、個人市民税が5,561万円、法人市民税が5,175万円の増、また、固定資産税は新築家屋の増加などにより3,568万円の増となるなど、全体では1億5,920万円の増を見込んでいます。

国庫支出金は、地方創生拠点整備交付金、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金の増加などにより5億5,842万円の増、繰入金は、財政調整基金繰入金を前年度に引き続きゼロとした一方で、ふるさと納税基金繰入金などの増加により、全体では1億7,448万円の増を見込んでいます。市債は、教育債などが増加しますが、国の地方財政計画を反映した臨時財政対策債の減少により、全体では1億9,020万円の減を見込んでいます。

予算総額に占める自主財源の割合は0.8ポイント減の42.4%となり、自主財源を確保することが難しい状況が続いています。

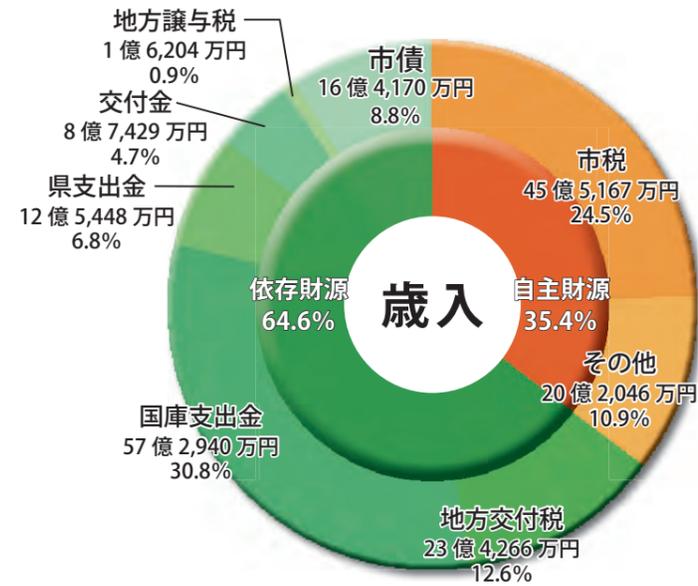
【歳出】

増加した費目・増加額は、総務費が地域再生可能エネルギー導入計画の策定や文書管理システムの導入経費などにより6,115万円、衛生費が新型コロナウイルスワクチン接種事業などにより1億7,169万円、商工費がアフターコロナを見据えた商業等活性化支援事業補助金などにより3,536万円、土木費が矢板運動公園やわかば通りの整備事業費などにより3,425万円、教育費が「文化スポーツ複合施設」建設工事費や「いちご一会とちぎ国体」開催に向けての市実行委員会補助金などにより7億50万円、公債費が借入れを行った市債の元利償還金の増加などにより1,900万円となっています。

一方、減少した費目・減少額は、民生費が生活保護費や施設型等給付費の減少などにより2,784万円、農林水産業費がため池長寿命化計画策定経費の減少などにより8,236万円となっています。

令和2年度一般会計決算

歳入 185億7,670万円



会計別決算額

区分	歳入	歳出
一般会計	185億7,670万円	175億5,879万円
特別会計		
介護保険	32億5,320万円	30億6,127万円
国民健康保険	36億5,456万円	35億8,304万円
後期高齢者医療	4億1,619万円	4億317万円
ハッピーハイランド矢板排水処理事業	4,045万円	3,817万円

区分	収入	支出
水道事業会計	収益的: 7億9,416万円 資本的: 1億6,580万円	6億7,630万円 5億5,729万円
下水道事業会計	収益的: 9億8,883万円 資本的: 1億4,100万円	7億5,513万円 3億7,353万円

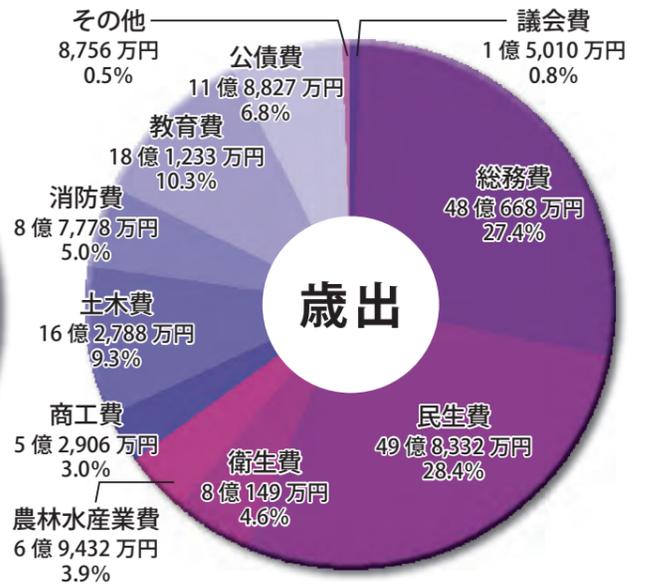
用語解説

一般会計	市の基本となる会計	
特別会計	特定の歳入を特定の事業に充て、一般会計と区別して経理する会計	
自主財源	市が自主的に収入できるお金(市税、繰入金など)	
依存財源	国や県から交付されるお金(地方交付税、国庫支出金など)	
歳入	市税	皆様に納めてもらう税金
	その他	分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、繰入金、繰越金など
	地方交付税	市町村の財政力に応じて国から交付されるお金
	国庫・県支出金	国・県が使い道を決めて交付するお金(社会保障、公共事業など)
	交付金・地方譲与税	国・県税の一部から市町村に配分されるお金で、その多くは使い道が自由
歳出	市債	国や金融機関などからの借入金(借金)
	議会費	議会運営や議員の議会活動などにかかる経費
	総務費	市役所の運営や広報やいたの発行などにかかる経費
	民生費	高齢者福祉や児童福祉、生活保護などにかかる経費
	衛生費	環境や健康の保持促進などにかかる経費
	農林水産業費	農業・林業・水産業の振興にかかる経費
	商工費	商業・工業・観光の振興にかかる経費
	土木費	道路や橋、公園などの整備管理などにかかる経費
	消防費	消防・防災活動などにかかる経費
	教育費	学校教育や生涯学習の推進などにかかる経費
公債費	市債の返済にかかる経費	
その他	労働費、諸支出金など	

一口メモ

対象者1人あたり10万円を支給する「特別定額給付金」支給事業などにより、歳入・歳出とも過去最大規模の決算となりました。

歳出 175億5,879万円



健全化判断比率と資金不足比率

健全化判断比率	項目	矢板市の比率	早期健全化基準	財政再生基準
	実質赤字比率	—	13.80%	20.00%
連結実質赤字比率	—	18.80%	30.00%	
実質公債費比率	9.1%	25.0%	35.0%	
将来負担比率	52.0%	350.0%	—	

「—」は赤字額がないことを示しています。

資金不足比率	会計名	矢板市の比率	経営健全化基準
	水道事業会計	—	20.0%
下水道事業会計	—	20.0%	

「—」は資金不足額がないことを示しています。